



右／左から、ワイナリー責任者の村井さん、企画販売担当の池岡さん、醸造担当の金竹さん。3人の自由な発想が個性豊かなワインを生み出します。上／2021年には蒸溜所が新設され、ワインだけではなくグラッパなどのブランデー造りも開始します。このマオイの地から世界への挑戦は始まったばかりです。



### エチケッタラベルへのこだわり

ワインの銘柄は、紫式部の小説「源氏物語」が由来となっており、夕顔、花宴、花散里など、一度は耳にしたことがある方も多いのではないだろうか。エチケットは和紙を使っており、ワインボトルを眺めると、恋愛、栄光と没落など平安時代の貴族社会が思い浮かぶようです。

また、毎年、自社で「エチケッタラワード」を開催し、公募の中からグランプリに輝いた作品をラベルデザインに取り入れ、限定のアートボトルをリリースしています。



### マオイ自由の丘ワイナリー 北海道自由ワイン株式会社

☑ 北海道夕張郡長沼町字加賀団地  
☑ 10:00~17:00  
(土日・祝日のみ営業。1~3月は休み)  
☎ 0123-88-3704  
☎ 0123-76-7410  
✉ info@hlwine.co.jp  
🌐 http://hlwine.co.jp



<濁標(ナイアガラ)/720ml>

### WINERY DATA

畑の見学 SHOP 試飲

- 主な栽培品種：ヤマブドウ、ヤマソービニオン、ヒマラヤ、ソーヴィニオン・ブラン、ピノ・ノワール、シャルドネ、ツヴァイゲルトレーベ 他
- 生産本数：約1万本/年 ● 栽培面積：12ha
- ファーストヴィンテージ：2006年
- ラインナップ：濁標(ナイアガラ)、葵(ツヴァイゲルトレーベ)、長沼シードル旅鳥 他
- 購入方法：ワイナリー直営SHOP・自社ウェブサイト

### 時代の流れとともに 新たな味を探究し続ける

### マオイ自由の丘ワイナリー

Maoi Jiyunooka Winery

2006年に旧マオイワイナリーが北海道長沼町のマオイ丘陵に誕生しました。それから約10年間、当時のオーナーご夫婦によって、菜根莊ワインのブランド名で知られる山ブドウ系の個性的なワインがリリースされてきました。2017年に当時のオーナーが引退され、跡を引き継いだのが若き3人で運営する「マオイ自由の丘ワイナリー」です。

3人にとって、ブドウ栽培も醸造も未経験の中での挑戦。2018年に初めて自分たちでブドウの木を植え、今は、前オーナーが植えた山ブドウのほか、余市や岩手県の契約農家から購入したブドウでワイン造りを進めながら、2021年の初収穫を楽しみにしているところです。

ワイナリー責任者の村井弥さんは、「前オーナーの力強い山ブドウの味は残しつつも、近年北海道でスタンダードな品種になりつつあるピノ・ノワールやシャルドネなどで、自分たちの味のワインを造りたい。」とこれからの想いを語ります。